



シーズン到来！ 山菜採りの注意点

長い冬がようやく終わり、山菜採りのシーズンを迎えました。山へ足を運び、森林浴も兼ねての山菜採りは楽しいですね。でも、毒草には要注意です！

- 採った山菜は水道水でよく洗い、生で食べないようにしましょう。また、帰宅後は、よく手を洗いましょう（エキノコックス症対策）。
- 種類の分からない山菜は、「採らない、食べない、人にあげない」ようにしましょう。

注意！

ニラとスイセンは見た目がよく似ていますが、スイセンは毒草で食べられません。市内では、毎年のように5月ごろスイセンの誤食による中毒が発生しています。地域保健課で配布している「庭や野山の毒草ハンドブック2002」では食べられる山菜とよく似た毒草を比較しながら解説しています。



ホームページ「きよたF an倶楽部」の「健康アドバイス」にも関連情報掲載中。（<http://www.city.sapporo.jp/kiyota>）

自動車は、私たちの日常生活になくてはならないもの。産業や経済活動においても重要な役割を果たしています。二〇〇二年三月末現在で、市内の自動車保有台数は約九十八万台。人口増加などの背景から、毎年増え続けています。その一方で、大気汚染や騒音、地球温暖化への影響など、深刻な環境問題を引き起こす一因にもなっています。

例えば、大気汚染の原因物質である窒素酸化物では、二〇〇〇年度市内で排出された約一万六千トンのうち、自動車の排



自動車をめぐる環境とエネルギーの問題

自動車をめぐる環境とエネルギーの問題

ECO CITY

環境を 考えよう

第22回

クリーンエネルギー自動車 低公害車テキスト

出ガスによるものが66%を占めています。また、健康被害などを引き起こす有害な浮遊粒子状物質についても、自動車によるものが全体の56%にも上っています。本市においても、自動車による環境破壊問題は、早急に取り組むべき課題となっています。

クリーンエネルギー自動車・低公害車の導入促進へ

そこで注目されているのが、クリーンエネルギー自動車・低公害車です。石油に替わるエネルギーを使用したり、ガソリン消費量を減らす工夫をしたりして、大気汚染の原因

物質や二酸化炭素を全く排出しない、または排出してもその量を少なくした自動車です。これまで実用化されている自動車には、ハイブリッド、電気、メタノール、天然ガスの四種類があり、また、燃料電池車やジメチルエーテル車などの開発・実用化も進められています。

本市でも、これら「環境にやさしい」自動車の普及促進を図っています。その一例が、公用車のクリーンエネルギー自動車・低公害車への転換や中央卸売市場での天然ガス構内運搬車導入です。

また、市民・事業者向けにこれらの自動車の導入について解説したテキストを作成し、配布しています。

このような自動車の普及が進めば、環境へのダメージを抑えることができ、環境・エネルギー問題の有効な解決策となることでしょう。



本市作成の啓発テキスト

広告欄